

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

< 25週 > 咽頭結膜熱 - 定点当たり報告数は微増し、過去5年間の同時期と比較してかなり多くなっている / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

< 咽頭結膜熱 >  
報告された約8割が5歳以下の小児で、特に2～4歳児の報告が多い



病原体情報  
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 / 手足口病患者から分離されているウイルス / ヘルパンギーナ患者から分離されているウイルス



速報  
P.6-8

重症急性呼吸器症候群(SARS)の「可能性例」国別累積報告数 / 本邦における重症急性呼吸器症候群(SARS)サーベイランスへの報告症例 / ヘルパンギーナ患者からのA群コクサッキーウイルス10型の分離 - 奈良県



海外感染症情報  
P.9-10

重症急性呼吸器症候群(SARS) - 更新情報



感染症の話  
P.11-14

< ヒストプラズマ症 >  
輸入真菌症の一つとして取り扱われており、最近では国内感染例が疑われる報告もあることから、重要性を認識する必要がある



読者のコーナー  
P.15



グラフ総覧(25週)  
P.16-22



25週のデータ  
P.23-31



# 発生動向総覧

第25週コメント 6月26日集計分

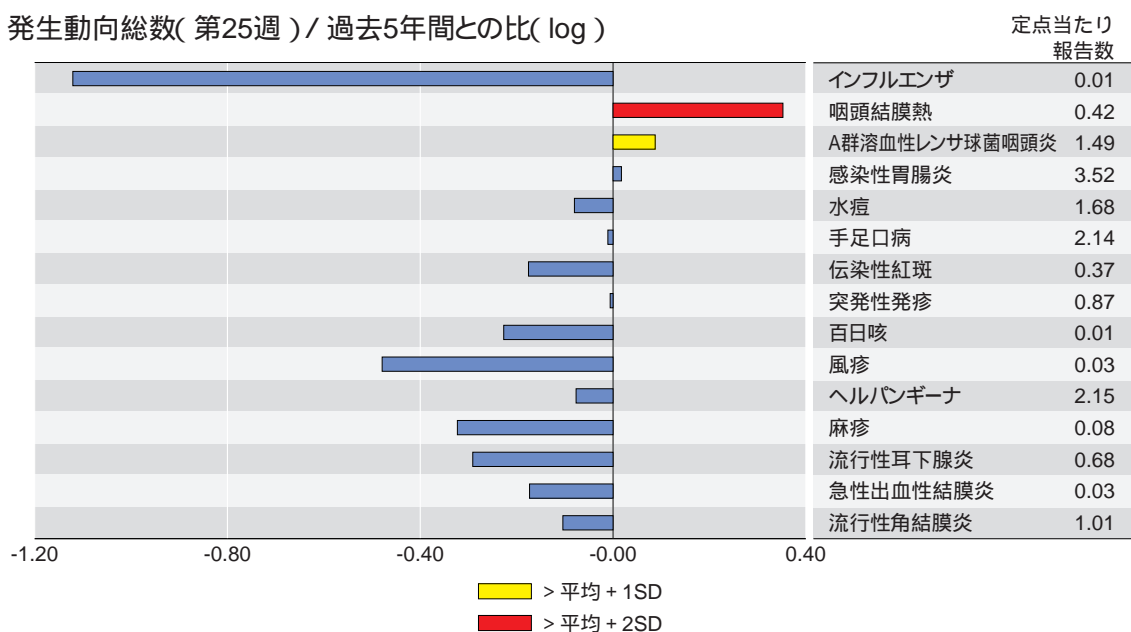
## 全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢4例( 推定感染地域: フィリピン2例、不明2例 )  
腸チフス2例( 推定感染地域: 国内1例、不明1例 ) パラチフス1例( 推定感染地域: ミャンマー )
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症49例( うち有症者26例 ); 最多報告は石川県( 8例 )
- 4類感染症: アメーバ赤痢5例( 推定感染地域: 国内4例、不明1例 )  
クロイツフェルト・ヤコブ病4例( いずれも孤発性 )  
ジアルジア症6例( 推定感染地域: 国内2例、ベネズエラ1例、不明3例 ) ツツガムシ病6例、  
デング熱2例( 推定感染地域: インドネシア、ニューカレドニア各1例 )  
日本紅斑熱1例( 島根県 ) 梅毒5例( 早期顕症4例、無症候1例 )  
マラリア2例( とともに三日熱 ) 推定感染地域: インド、パキスタン各1例 ) レジオネラ症1例  
急性ウイルス性肝炎2例 B型1例( 推定感染経路: 性的接触 )  
C型1例( 推定感染経路: 性的接触 )  
後天性免疫不全症候群5例( すべて無症候 )  
推定感染経路: 性的接触5例( 異性間1例、同性間4例 )  
推定感染地域: 国内4例、東南アジア1例  
( 補 ) ・後天性免疫不全症候群( AIDS ) 1例の報告があったが、報告基準を満たさず削除予定。  
・第22週分の報告遅れで、同一保健所からE型肝炎3例の報告があった。第19週に報告された1例を含めた4例には会食歴があり、鹿肉の生食によるものと推定されている。

## 定点把握の対象となる4類感染症( 週報対象のもの )

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は微増し、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、また過去10年間と比較して、本年16週以降最高の値で推移している。都道府県別では富山県( 1.8 )、大分県( 1.8 )、福井県( 1.6 )が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では宮崎県( 3.2 )、富山県( 3.0 )が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は微増して0.26で、過去4年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別では宮城県( 1.1 )、山形県( 1.0 )、岡山県( 1.0 )が多い。手足口病の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では広島県( 10.7 )、島根県( 5.0 )、山口県( 4.9 )が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は微増し、都道府県別では北海道( 1.3 )、長野県( 1.0 )、静岡県( 1.0 )が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は増加し、都道府県別では山口県( 7.2 )、三重県( 5.7 )、大阪府( 5.1 )が多い。麻疹( 成人麻疹を除く )の定点当たり報告数は微増し、都道府県別では福島県( 0.5 )、岩手県( 0.4 )、栃木県( 0.4 )が多い。急性出血性結膜炎の定点当たり報告数は前週と同値で、都道府県別では宮崎県( 1.8 )が非常に多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は増加して0.10で、都道府県別では和歌山県( 1.1 )、大阪府( 0.5 )、奈良県( 0.5 )が多い。成人麻疹の定点当たり報告数は減少して0.03で、都道府県別では福島県、東京都( とともに0.3 )が多い。

発生動向総数( 第25週 ) / 過去5年間との比( log )

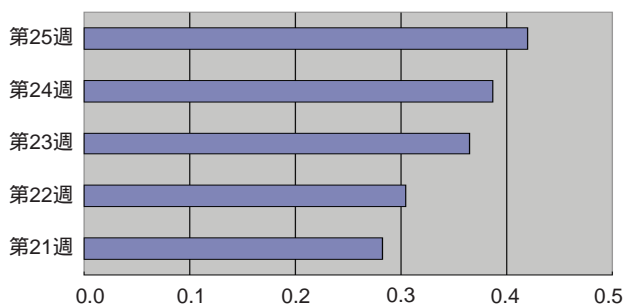


当該週と過去5年間の平均( 過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均 ) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

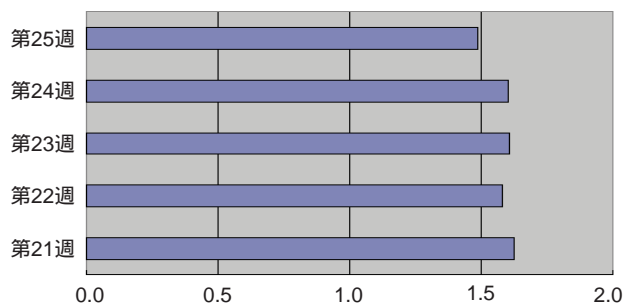
## 最近の注目疾患－5週間の動き

咽頭結膜熱、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は前週に比べて増加している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、前週に比べて微減している。

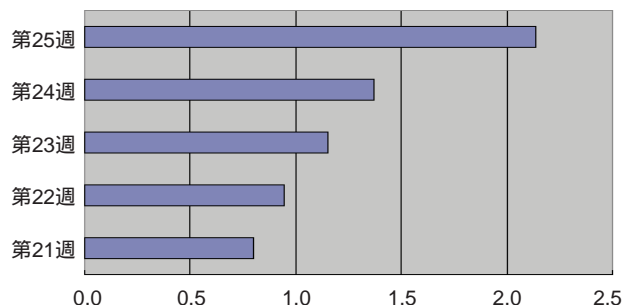
咽頭結膜熱



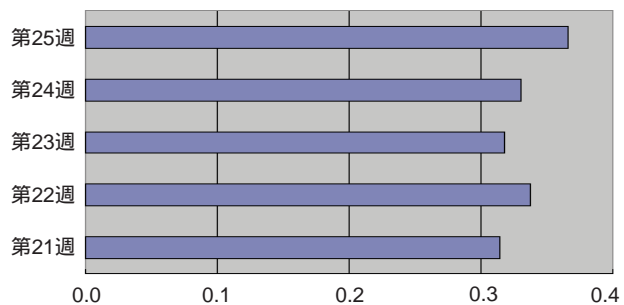
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



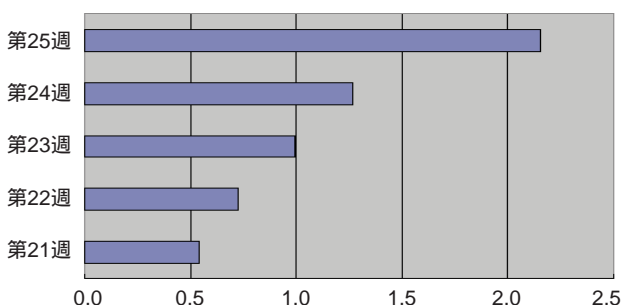
手足口病



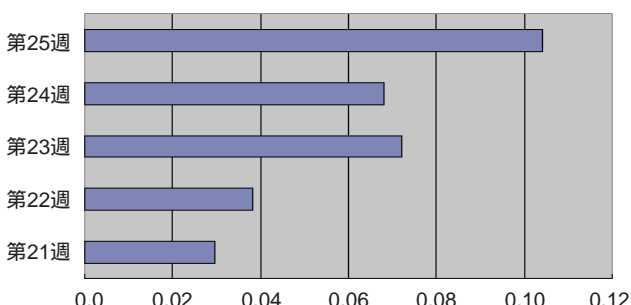
伝染性紅斑



ヘルパンギーナ



無菌性髄膜炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



# 注目すべき感染症

## 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は例年より多い状態で推移している。第25週でも更に増加しており、過去10年間のうちでも最大となっている。以前から多かった大分県では減少傾向にあるが、富山県、福井県、三重県、石川県でも定点当たり報告数が1.0を超えている。報告された約8割が5歳以下の小児となっており、特に2～4歳児の報告が多かった。

本年、現在までに咽頭結膜熱から分離されている病原体は、アデノウイルス3型、あるいは2型が主である。また、数は少ないものの7型も分離されている。

本疾患はプールでの感染も見られることから、プール熱とも呼ばれる。例年、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを形成する夏季の疾患である。

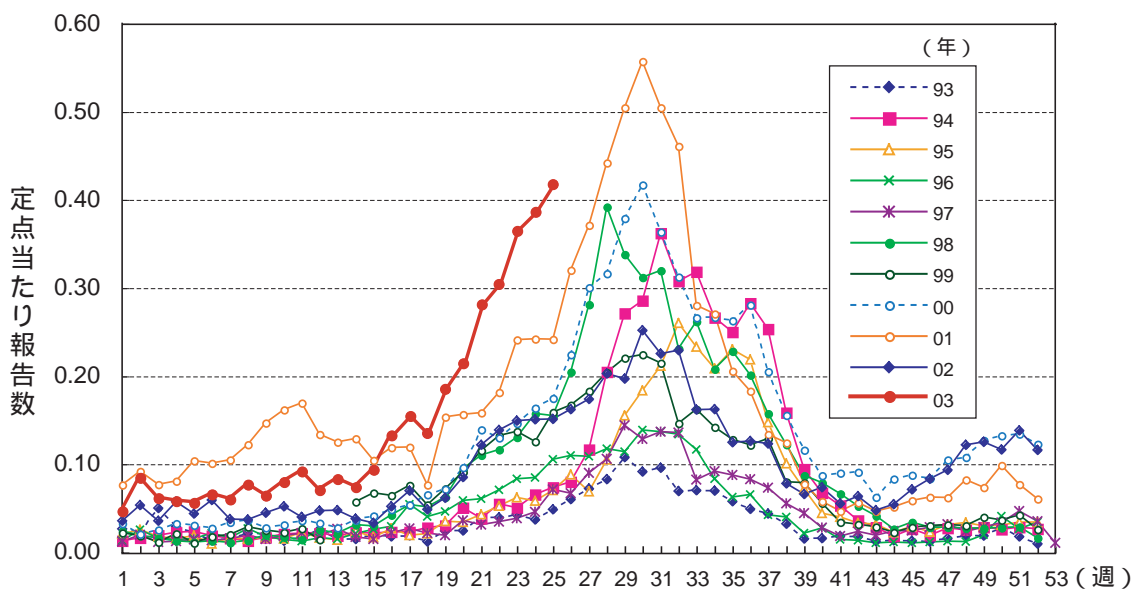
感染経路は通常飛沫感染であるが、プールでは結膜からの感染や経口的な感染も考えられている。症状としては、5～7日の潜伏期の後に発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭痛、結膜充血、眼痛、羞明、流涙、眼脂などの症状があり、それらが3～5日間程度持続する。基本的には良性のウイルス性疾患であり、脱水を防ぐなどの保存的な治療が中心となる。

感染予防のためには、患者のタオルなどを共用しないことなどが重要である。発症してから、眼・呼吸器系では7～14日間、便からは30日間ウイルスが検出されることもある。

1994年頃からアデノウイルス7型による咽頭結膜熱の流行がみられているが、同ウイルスによる肺炎などの重症例が報告され、問題となった。近年の報告数は多くはないが、依然として検出がみられているので、引き続き注意が必要である。

本疾患は今後夏にかけて報告数が増加してくると考えられるので、流行に注意することが必要である。また、プールを介しての流行もあるので、水泳前後のシャワーやプールの水の消毒なども大切である。

図. 過去10年間の咽頭結膜熱の週別定点当たり報告数





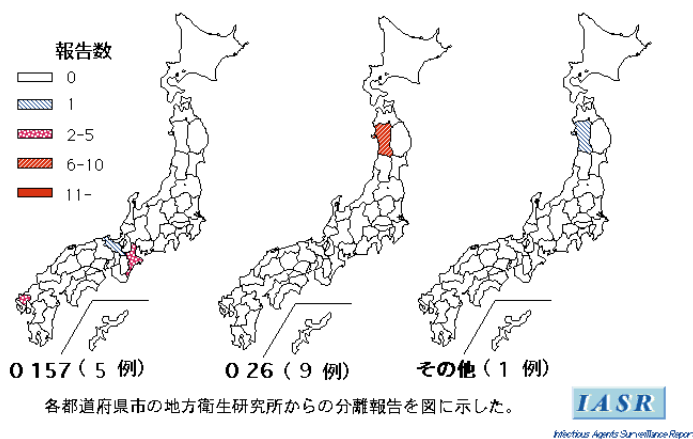
## 病原体情報

\*グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。  
( 2003年6月26日現在報告分 )

### ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2003年

検出総数は135件で、うちO157が90件、O26が31件、その他の血清型が14件報告されている。第23~25週の間、O157は三重県2件( いずれもVT1&2 )、佐賀県2件( いずれもVT2 )、京都市1件( VT1&2 )が報告され、いずれも散発、または家族内発生事例からの検出報告である。一方、O26は秋田県の小学校における集団発生事例からの検出が計9件( すべてVT1 )報告されている。秋田県からはO26以外に、血清型OX3が1件( VT2 )報告されている。

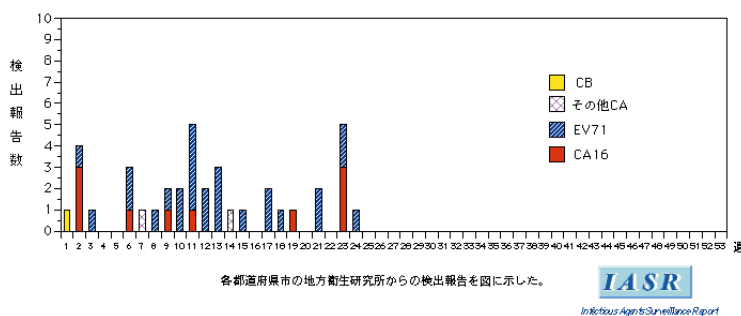
都道府県別Vero毒素産生性大腸菌検出報告状況、2003年第23~25週  
( 病原微生物検出情報 : 2003年6月26日現在報告数 )



### 手足口病患者から分離されているウイルス 2003年

エンテロウイルス71型( EV71 )が26件報告されている。第2~11週に山形県から10件、第21~24週に香川県から5件、他に福島県、三重県、北九州市各3件、大阪府、福岡市各1件の報告である。コクサッキーA16型ウイルス( CA16 )は10件の報告があり、第19週に新潟県1、第23週に奈良県2、秋田県1が報告されている。この他に、CA5が1件( 島根県 )、CA6が1件( 京都市 )、CB2が1件( 浜松市 )報告されている。

週別手足口病患者からのウイルス分離報告数、2003年  
( 病原微生物検出情報 : 2003年6月26日現在報告数 )



### ヘルパンギーナ患者から分離されているウイルス 2003年

A群コクサッキーウイルス( CA )10型が14件報告されており、奈良県7( 本号速報記事参照 )、大阪府5、島根県2の報告である。この他に、CA6が5件( 京都市3、愛知県2 )、CA4が4件( 秋田県3、島根県1 )、CA2が1件( 大阪市 )、CA12が1件( 島根県 )、エコーウイルス30型が大阪府から2件報告されている。





## 重症急性呼吸器症候群(SARS)の「可能性例」国別累積報告数

(平成14年11月1日<sup>1</sup>～平成15年7月3日)

国名	累積症例数 <sup>2</sup>	WHOによる前回の更新以降の新規症例数 <sup>2</sup>	死亡者数	回復者数 <sup>3</sup>	「可能性例」の最終報告日	現在の累積症例数報告日
オーストラリア	5	0	0	5	5月12日	6月27日
ブラジル	1	0	0	1	6月9日	7月1日
カナダ <sup>4</sup>	251	0	38	193	6月27日	7月2日
中国 <sup>5</sup>	5327	0	348	4933	6月25日	7月3日
香港(中国特別行政区) <sup>6</sup>	1755	0	298	1429	6月11日	7月3日
マカオ(中国特別行政区)	1	0	0	1	5月21日	7月3日
台湾(中国)	674	0	84	498	6月19日	7月3日
コロンビア	1	0	0	1	5月5日	5月5日
フィンランド	1	0	0	1	5月7日	5月20日
フランス	7	0	0	6	5月9日	5月22日
ドイツ	10	0	0	9	6月4日	6月23日
インド	3	0	0	3	5月13日	5月14日
インドネシア	2	0	0	2	4月23日	6月19日
イタリア	4	0	0	4	4月29日	7月3日
クウェート	1	0	0	1	4月9日	4月20日
マレーシア	5	0	2	3	5月20日	6月26日
モンゴル	9	0	0	9	5月6日	6月2日
ニュージーランド	1	0	0	1	4月30日	6月25日
フィリピン	14	0	2	12	5月15日	7月1日
アイルランド	1	0	0	1	3月21日	6月12日
韓国	3	0	0	3	5月14日	7月2日
ルーマニア	1	0	0	1	3月27日	4月22日
ロシア	1	0	0	0	5月31日	5月31日
シンガポール	206	0	32	171	5月18日	6月27日
南アフリカ	1	0	1	0	4月9日	5月3日
スペイン	1	0	0	1	4月2日	6月5日
スウェーデン	3	0	0	3	4月18日	5月13日
スイス	1	0	0	1	3月17日	5月16日
タイ	9	0	2	7	6月7日	7月1日
英国	4	0	0	4	4月29日	6月30日
米国 <sup>7</sup>	73	0	0	65	6月23日	7月2日
ベトナム	63	0	5	58	4月14日	6月7日
<b>計</b>	<b>8,439</b>	<b>0</b>	<b>812</b>	<b>7,427</b>		

[注]・累積症例数は死亡数を含む。

・重症急性呼吸器症候群(SARS)は除外診断であるので、症例の報告状況は時々刻々と変わりうる。従って、以前に報告された症例でも、その後の調査と経過観察により削除される可能性がある。

- 1 現在はSARSと確認された中国の異型肺炎の症例を含むために、サーベイランス期間の開始日を2002年11月1日に変更した。
- 2 「累積症例数」の減少と、「前回と今回のWHOへの新規報告症例数」のあいだの矛盾は、(同期間に別な病因が判明し)取り下げられた症例数があることによって生じている。
- 3 各国の公衆衛生当局が、「退院」あるいは「回復」したと報告した症例を含む。
- 4 カナダにおける直近のSARSの「可能性例」の発生は6月12日で、最後の「可能性例」の隔離も同日に行われた。
- 5 中国における直近のSARSの「可能性例」の発生は6月3日で、最後の「可能性例」の隔離も同日に行われた。
- 6 香港における死亡例はベトナムから医療移送された1例を含む。
- 7 2003年6月26日以降は「回復者数」に、「可能性例」でまったく入院しなかった例と、入院しその後退院したと報告された例のすべてを含む。以前の報告は、入院しその後退院した症例だけが含まれていた。

(WHOホームページより)

## 本邦における重症急性呼吸器症候群( SARS )サーベイランスへの報告症例

2002年11月中旬の中国広東省での非定型肺炎の多発に始まり、ハノイ( ベトナム )、香港の院内感染の報告が続き、2003年3月12日に世界保健機関( WHO )は“ Global Alert ”を発令し、15日にSARS( Severe Acute Respiratory Syndrome )という新たな疾患概念を提唱した。

本邦ではこれを受け、厚生労働省の通知により、3月14日からSARSのサーベイランスが開始された。7月1日現在、同省に報告された症例数は68例、うち「可能性例」16例、「疑い例」52例である。しかし最終的には、全例がSARS対策専門委員会で可能性が否定され、本邦では現時点までSARS症例の発生は見られていないと判断されている。

SARSとして報告された症例数はサーベイランスの開始当初に多く、来日した外国人医師と接触した症例を除いては、すべてが輸入例である。「可能性例」は6月24日に報告された症例は後日、他疾患の診断が付き報告が取り下げられたため、4月19日に報告されたものが最後の症例である。発症から報告までに掛かった平均日数は3.1日( 95%CI: 2.2, 4.0 )で、サーベイランス開始時に比較的長く、後半へむけて短くなった。早期受診と即事報告の重要性が周知された結果と考えられる。

報告症例は男性が多く、特に報告数が多い30~49才では男女比が6倍以上あった。年齢群別報告数では30~39才が最も多く25%を占め、20~29才がこれに続き19%、また海外では報告が少なかった10才未満の小児が16%を占めていた。症例の一部からの情報に過ぎないが、成人群は商取引、海外赴任、留学などの渡航理由が考えられ、小児群はその同行家族と考えられる。渡航先は台湾、香港、中国本土( ほとんどが広東省 )が圧倒的に多く(  $p < 0.001$  )、経済交流、留学など、最近の中国との結びつきの強さが反映されている。今後、症例情報として職業や渡航目的などの曝露機会に関連した情報の報告が増えると、感染リスクなどの評価・解析がより正確、容易になると考えられる。

北海道から鹿児島県まで全国から報告されているが、国際空港、港湾が存在し、人口も多い東京からの報告数が最も多かった。法務省発表の都道府県別出国者数から発生率を計算すると、東京は年間出国者数10万対0.7人、神奈川県0.4人、大阪府0.3人で、報告数は少ないが出国者数も少ない四国、九州南部の都道府県では10万対で2.0人を超えた。今回、症例定義に当てはまる患者の発生リスクは、都道府県で大きな違いはなかった。

検査所見が含まれている報告は少なく、半数以上で報告されていた白血球数(  $n=41$ , 平均  $9,734/\mu\text{l}$  )と血小板数(  $n=34$ ,  $21.7万/\mu\text{l}$  )は、SARSの特徴として報告された汎血球減少の所見とは一致しなかった。また、「可能性例」のレントゲン所見の詳細はほとんど報告されていない。臨床転帰については、最終的に全例で改善がみられたと報告されている。

海外からの報告によると、症例定義の一部しか満たさない例にコロナウイルス感染が確認されたり、臨床的にSARSが否定された例が後にSARSと診断されるなど、臨床像が確定していない現状である。また、診断検査の精度に依然問題が残っている。いずれにしても今後、個人のプライバシーに配慮しつつも、サーベイランスによる情報収集をより一層強化していくことが必要である。

感染症情報センター-SARS対策チーム

## ヘルパンギーナ患者からのA群コクサッキーウイルス10型の分離 - 奈良県

ヘルパンギーナと診断された患者10例の咽頭ぬぐい液から、8件のA群コクサッキーウイルス10型(CA10)と1件のアデノウイルス3型を分離・同定した。ウイルス分離には乳のみマウス、HEp-2、MA-104およびRD-18S細胞を使用し、乳のみマウスへの検体接種では、2～3日後に顕著な下肢麻痺として発症が確認された。その後の同定は、国立感染症研究所分与の免疫マウス腹水による補体結合反応試験により、型識別を行った。また、HEp-2細胞でCPEが確認された1例については、デンカ生研製の抗血清による中和試験でアデノウイルスと同定した。ウイルスが分離された患者は全例発熱を有するもので、2例の家族内発生を含むものであった。また、ウイルス性発疹症(顔面、上肢、下肢)と診断された1例からも、CA10を分離・同定した。

本県のヘルパンギーナ患者発生の初発は第5週で、第9週以降からは連続的な発生が観察され、第22週以降は定点当たり報告数1.0を超える増加となっており、25週現在、定点当たり3.7の発生数である。地域的には、県北部から中和、南和への広がりが確認されている。なお、去年はCA4が主な原因ウイルスであった。

奈良県保健環境研究センター

北堀吉映 中野 守 井上ゆみ子 立本行江 足立 修

(IASR2003年7月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)





## 海外感染症情報

\* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ( <http://www.forth.go.jp/> )をご覧ください。

### 重症急性呼吸器症候群(SARS) - 更新情報

WHO/CSR 2003年6月24日 - 更新87

北京

WHOは本日、北京への不要不急の渡航延期勧告を取り下げる。北京は、渡航延期勧告が適用されていた世界で最後の地域であった。

不要不急の渡航延期勧告は、SARSの国際的な拡大を最小限に抑えるため、4月23日に出された。WHOは、北京の状況が現在著しく改善したため、渡航延期勧告を変更する。北京での最後の新規患者は5月29日に隔離されており、その後SARSと疑われる症例が数例あったが、すべて否定された。最近北京から輸出された症例はなく、最近の症例はすべて既知の感染連鎖へ遡られている。

北京では、「可能性例」が累計で2,521名、死亡者が191名発生し、世界で最大のSARS集団発生となった。続いて、香港で患者1,755名、死亡者296名、広東省で患者1,511名、死亡者57名であった。

WHO/CSR 2003年6月25日 - 更新88

中国

本日、中国衛生署は、新たに広東省で発症した77歳の女性1名をSARS「可能性例」として報告した。この患者は、過去に「疑い例」として分類されており、WHOの勧告に基づき、6月3日以降隔離された。この患者は、広東省で5月17日以来の報告であり、中国全土では6月11日以来である。

WHOは、今回の例は「疑い例」から「可能性例」への再分類であり、地域内感染伝播の徴候とみなすべきではないと強調している。WHOは、この患者や、患者の感染源と曝露時期を特定しうる、感染連鎖との関連に関する詳細な追加情報を待っている。

この患者は6月の始めに発症したことから、その後切れた感染連鎖から感染した可能性が最も考えられる。香港当局による詳細な記録により、この女性は香港で入院し、5月20日から21日に他の疾患の治療を受けていた。この患者の病室がSARS患者と同じ病棟にあったため、6月1日まで健康監視下に置かれた。健康監視期間中、SARS症状は見られなかった。しかしながら、香港の病院での感染連鎖の可能性は完全には除外されない。先週のSARS国際会議で明らかになったように、この疾患は必ずしも高齢者では臨床的に典型的な経過を取らず、特に、他の疾患の治療中の場合にはそうである。

日本

日本の厚生労働省は本日、日本を訪れ、2日後に発病した男性をSARS「可能性例」として報告した。この患者は直ちに入院させられ、WHO勧告に基づき管理されている。

初期の検査から、他のよく見られる重症の呼吸器疾患は除外された。さらに詳しい検査が行われており、疫学調査が開始されている。

WHO/CSR 2003年6月27日 - 更新90

日本

本日、日本の厚生労働省は、SARS「可能性例」からSARSが除外されたとWHOに報告した。検査により、他の疾患の診断が確認された。この患者は海外から来た男性で、6月21日に日本に到着し、2日後に高熱などの症状を発症した。

WHO/CSR 2003年6月30日 - 更新91

SARS疑い患者が6月15日以降報告されていないことから、WHOは緊急対応から、将来のSARS再興に対応するための研究ベースの計画にシフトしている。

ウイルスがヒトに感染をもたらす宿主動物や環境条件が不明の状態では、SARSが再流行した際には世界中が損害を被るとみなされなければならない。このような理解なしに、将来の流行の展開や終息を確実に予想することはできない。

SARSコロナウイルスは、研究所のバーチャルネットワークにより1カ月以内に特定された。その後速やかに、完全な遺伝子配列が解明された。

これらの進歩は診断検査の開発に寄与しており、また、320名が3月に感染したアモイガーデンでの流行のような、異常な流行の調査にも寄与した。また、昨年11月中旬に中国南部で見つかった最初の感染者と動物との関連の解明にも寄与した。



## 感染症の話

### ヒストプラズマ症

ヒストプラズマ症(histoplasmosis)は輸入真菌症の一つとして取り扱われており、3種類の原因菌がある。それぞれの感染により病名は、カプスラーツム型ヒストプラズマ症、ズボアジ型ヒストプラズマ症、ファルシミノーズム型ヒストプラズマ症と呼ばれている。感染症法では特に規定されていないが、国内感染例が疑われる報告もあることから、危険な真菌症として重要性を認識する必要がある。

#### 疫学

世界的にみられ、温帯、亜熱帯、熱帯に多い。2002年9月までに、本邦で36例が確認されている。また、イヌで4例、ウマで1例が報告されており、人獣共通真菌症である<sup>1)3)</sup>。以前、日本での感染例はないと思われていたが、最近国内感染が疑われる症例が報告されはじめてきた。本症は細胞性免疫機能が低下した患者、特に臓器移植やエイズの患者に発症例が多く、重篤となる。

カプスラーツム型ヒストプラズマ症の原因菌は*Histoplasma capsulatum* variety *capsulatum* Darling 1906で、世界中の熱帯、亜熱帯、温帯地域で発生している。特に、米国のミシシッピ川流域に報告例が多い。本菌は通常菌糸状で発育するが、感染組織内では酵母状発育をする(二形性真菌)。菌糸状発育で形成された大、小の分生子を吸入することにより肺感染を起こすが、多くの場合良性に経過し、自然治癒する。しかし、細胞性免疫機能が低下している患者では病状は進行し、全身性となる。

本邦報告例のうち、興味ある2例を示す。1例は、米国テキサス州の黒人から死体腎の移植を受けた患者が全身性ヒストプラズマ症を起こして死亡した例、もう1例は、テレビ取材班がアマゾンの洞窟内の撮影を行ったとき、コウモリの糞に付着していた*H. capsulatum*を吸い込み、8名全員が感染した事例である。なお、本菌のテレオモルフ(有性世代)は*Ajellomyces capsulatus* McGinnis et Kats 1979である。

ズボアジ型ヒストプラズマ症の原因菌は*Histoplasma capsulatum* var. *duboisii* (Vanbreuseghem) Ciferri 1960で、本症は主にアフリカ大陸で報告されている。本邦でも、ウガンダからの渡航者の症例が報告されている。カプスラーツム型とズボアジ型との違いは、後者がアフリカ大陸でみられ、感染組織内の酵母細胞が前者のそれ(直径2～4 μm)に比べて大きく(直径8～15 μm)、組織内に多数の巨細胞が出現してくること以外は、分離菌の間に菌学的(形態的)な違いはない。本菌のテレオモルフは*H. cap.* var. *cap.*と同じである。

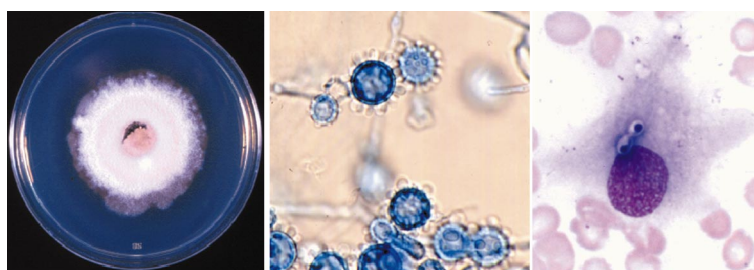
ファルシミノーズム型ヒストプラズマ症は「仮性皮炎」ともいわれ、ウマ、ロバ等の頸部や脚のリンパ管やリンパ節を特異的に侵す。ウマに発生したときは農水省への届出の義務がある。原因菌は*Histoplasma farciminosum* Ciferri et Redaelli 1934で、エジプト、スーダン、インド、東欧諸国、旧ソビエト連邦で主にみられる。菌学的には*H. capsulatum*と区別できない。四足獣から分離されたという事実によってのみ同定されてきた。興味あることに、ファルシミノーズム型ヒストプラズマ症は本邦でも、江戸時代から「ウマのカサ」として知られていた。また、戦前「仮性皮炎」としても、軍馬を中心に2万頭以上が確認されていることから、本邦もファルシミノーズム型ヒストプラズマ症の流行地であった。本邦で確認された渡航歴のないヒト症例は皮膚病変だけを示し、その分離菌株はチトクローム*b*遺伝子配列から*Histoplasma farciminosum*と同定されている<sup>4)</sup>。また、

イヌのヒストプラズマ症は4例とも皮膚の潰瘍と肉芽腫性病巣を示し、これらも「仮性皮炎」と類似した症状であった。このような背景から、日本固有のヒストプラズマ症はファルシミノーズム型ヒストプラズマ症である可能性が示唆されている。

#### 病原体 ( 写真1 )

*H. capsulatum*は土壌真菌で、ヒバリ、コウモリ等の糞に好んで発育する。27 °Cでの発育は遅く、集落は粉状から綿毛状となる。初めは白色で次第に黄褐色を帯びてくる。裏面は黄色あるいは黄橙色を呈する。

顕微鏡的には分生子( conidiophore ) および、短い菌糸側枝の先端に大、小の分生子( conidium )が形成される。大分生子( macroconidium )は直径7 ~ 25 μm、球形または西洋梨形である。細胞壁は厚く、表面には多くの指状の突起がみられる。小分生子( micro-conidium )は直径2 ~ 6 μm、球形あるいは西洋梨形である。



( 写真1 ) 左から*Histoplasma capsulatum* variety *capsulatum*の巨大集落、大分生子、骨髄中の酵母細胞

1%ブドウ糖を添加したブレイン・ハート・インフュージョン寒天( brain heart infusion agar )を用い37 °Cで培養すると、白色 ~ 淡黄色の酵母様集落を形成する。酵母細胞は球形または卵円形、直径2 ~ 4 μmである。

病理組織では著しい肉芽腫性炎症反応が特徴的である。これら肉芽腫を形成している組織球は、細胞性免疫不全の場合、取り込んだ酵母細胞を殺すことができず、菌は組織球内で増え続ける。

#### 臨床症状

1. 急性肺ヒストプラズマ症( acute pulmonary histoplasmosis ): 一過性にインフルエンザ様症状を呈し、自然治癒する。
2. 慢性肺ヒストプラズマ症( chronic pulmonary histoplasmosis ): 結核に似た症状を示す。特に、形成された空洞は結核による場合との鑑別が難しい。
3. 全身性ヒストプラズマ症( systemic histoplasmosis ): 急性型は小児に発症しやすく、死の転帰を取ることが多い。*H. capsulatum*が繁殖している洞窟や納屋に入り、多量の分生子を吸入した結果起こる。慢性型は細胞性免疫不全の患者に発生しやすい。
4. 眼ヒストプラズマ症( ocular histoplasmosis ): 血行散布により二次的に発症する。特に、乳頭部周辺および網膜が侵されやすい。



## 病原診断

### 1. *H. capsulatum*の分離同定

喀痰、膿、生検材料からの*H. capsulatum*の分離は当然のことながら、隔離された安全キャビネット内で行われなければならない。本症では、菌分離率が低いことが確定診断の妨げとなっている。国内症例の36例のうち、8例のみ菌が分離されている。27 で、サブロー・ブドウ糖寒天培地、血液寒天培地、1%ブドウ糖添加ブレイン・ハート・インフュージョン寒天などを使用し、4週間まで観察することを推奨する。また、材料をブレイン・ハート・インフュージョン液体培地に浮遊させ、振盪培養後、平板培地に接種すると菌分離率が向上する。

本菌の同定の決め手は、特徴的な大分生子の確認である。載せガラス培養をしなくても、ラクト・フェノール・コットンブルーで固定・染色した掻き取り標本の観察で確認できる。また、37 における酵母様細胞の確認も有用であるが、分離株によっては温度依存性の二形性を取らないこともある。

### 2. 病原組織学的診断

組織内で、*H. capsulatum*が直径2～5 μmの酵母形として細胞内寄生しているのを確認する。PAS染色、GMS染色陽性である。

### 3. 免疫学的診断

免疫反应用抗原として、ヒストプラスミン(histoplasmin)による皮膚(内)反応が有用とされてきたが、眼ヒストプラズマ症を刺激すると言われているので、使用には注意を要する。また、不顕性感染等の既往歴がある者は陽性となるので、流行地に居住した成人には有用でない。

抗体検出法には補体結合反応(CF)と免疫拡散法(ID)があるが、プラストミセス症、コクシジオイデス症、パラコクシジオイデス症との交差反応により陽性に出ることがあり、注意が必要である。抗原検出法としては、血清、尿、髄液等から多糖体抗原をRIAで測定する方法がある。AIDS患者には有用であるが、急性肺ヒストプラズマ症では検出できないことが多い。

ベータ 1,3 グルカン(β 1,3 glucan)を検出するキットも、ヒストプラズマ症に反応するといわれている。

### 4. PCRによる*H. capsulatum*遺伝子の検出・同定

2002年9月現在、282個の遺伝子がGenBankに登録されている。現在、rRNA遺伝子をパラフィン包埋した組織より抽出して検出する方法がほぼ確立している。また、培養菌体を固定してDNAを抽出し、rRNA遺伝子配列の決定による同定は可能である<sup>5)</sup>。

## 治療・予防

現在、イミダゾール系の抗真菌剤(ケトコナゾール、ミコナゾール、イトラコナゾール等)およびアムフォテリシンBが治療薬である。アムフォテリシンBの抗真菌作用は優れているが、副作用(肝、腎障害)が強く、使用に当たっては十分な注意が必要とされている。

ヒトからヒトへの感染は通常認められないので、入院患者の隔離は要さない。材料の取り扱いについては、本菌を取り扱っている本人はもとより、周囲の人々に感染を起こす可能性があるため、安全キャビネット内で行わなければならない。

ヒストプラズマ症は感染症法で規定されている真菌感染症ではないが、輸入例だけでなく国内感染例が疑われる報告もあることから、日本でもその存在を疑われる危険な真菌感染症として重要性を認識する必要がある。



## 【引用文献】

- 1) Fujio J, Nishimura K, Miyaji M: Epidemiological survey of the imported mycoses in Japan. Jpn J Med Mycol 40: 103-109, 1999.
- 2) Chandler, Kaplan, Ajello: 13 Histoplasmosis capsulati, 14 Histoplasmosis duboisii, 15 Histoplasmosis farciminosi. In A colour atlas and textbook of the histopathology of mycotic diseases. Wolfe Medical Publications Ltd, P63-72, 1980.
- 3) 佐野文子、上田八千代、猪股智夫、田村美貴、池田輝男、亀井克彦、木内明男、三上 襄、西村和子、宮治 誠: 本邦で発症したイヌのヒストプラズマ症2例について. 真菌誌 42: 217-223, 2001.
- 4) 横山耕治、王 麗、Biswas SK、伊藤純子、宮治 誠、西村和子: *Histoplasma capsulatum* 3 varietiesのチトクロームb遺伝子による同定と系統関係. 真菌誌41 suppl 1: 106(P-77), 2000.
- 5) Tamura M, Kasuga T, Watanabe K, Katsu M, Mikami Y, Nishimura K: Phylogenetic characterization of *Histoplasma capsulatum* strains based on ITS region sequences, including two new strains from Thai and Chinese patients in Japan. Jpn J Med Mycol 43: 11-19, 2002.

( 千葉大学真菌医学研究センター病原真菌研究部門 宮治 誠 佐野 文子 )



## 読者のコーナー

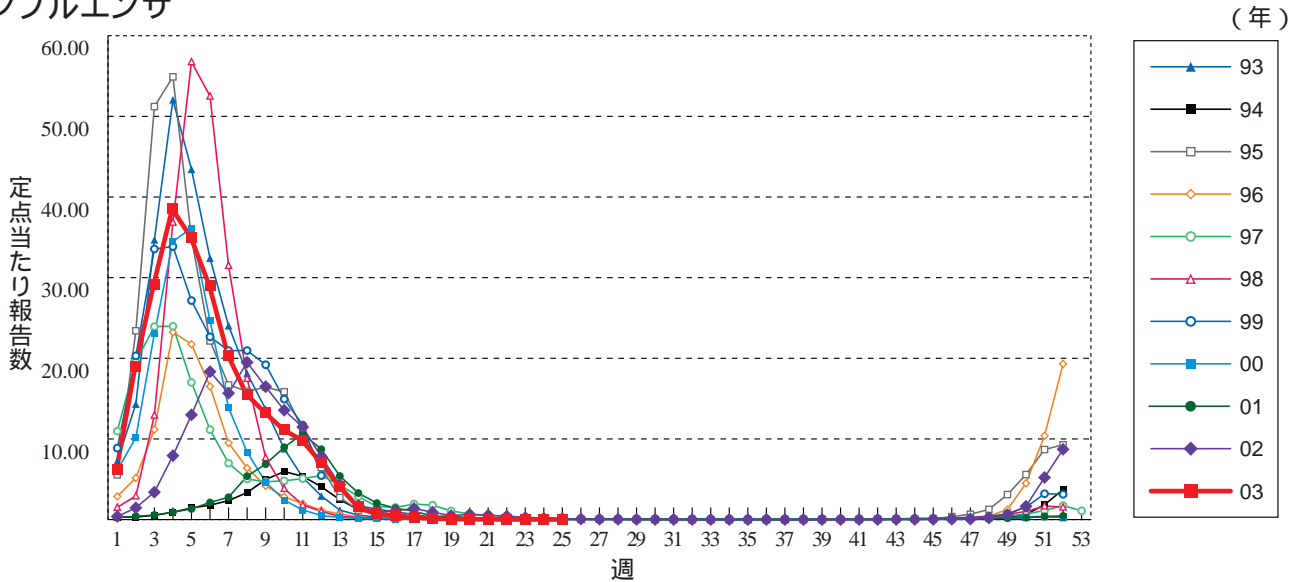
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

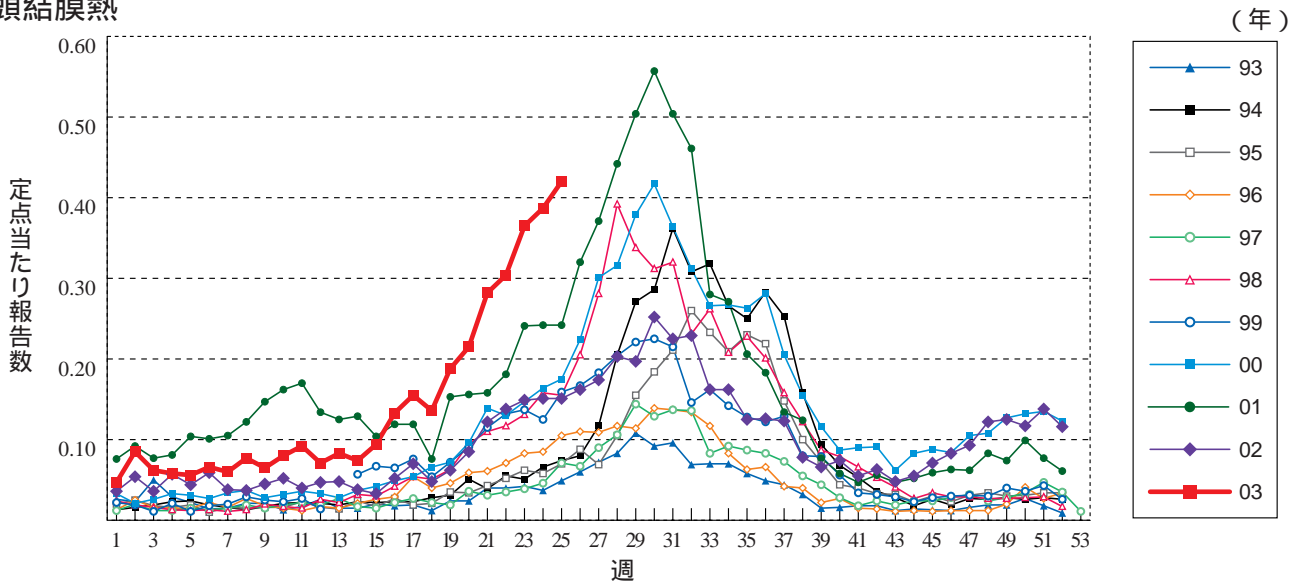


**グラフ総覧( 25週 )**

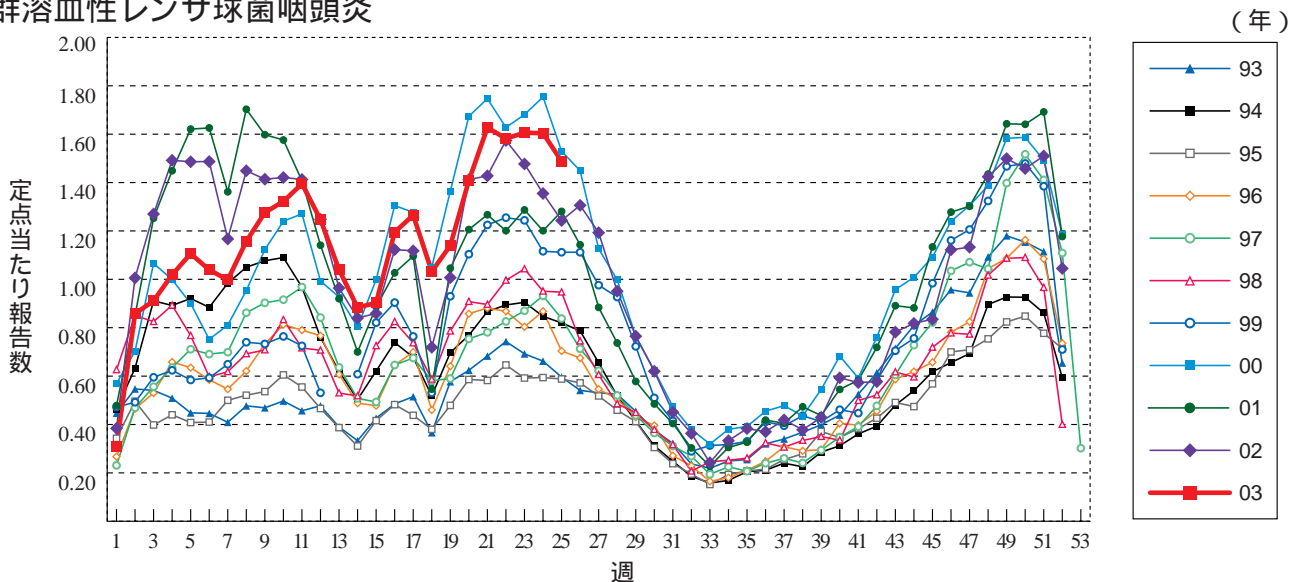
**インフルエンザ**



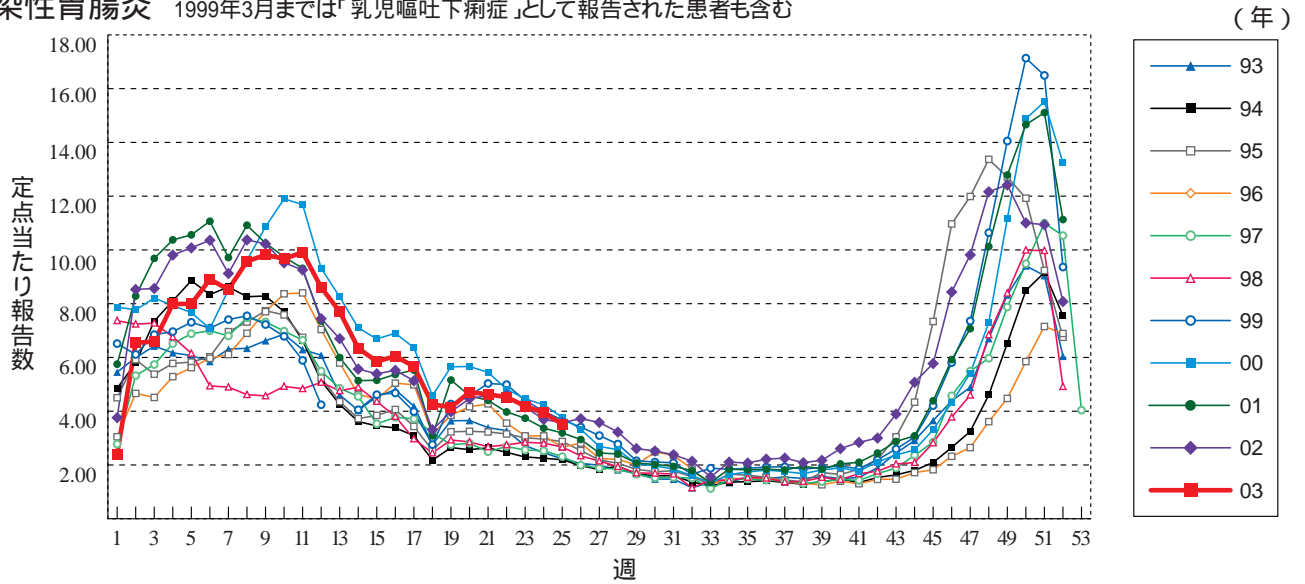
**咽頭結膜熱**



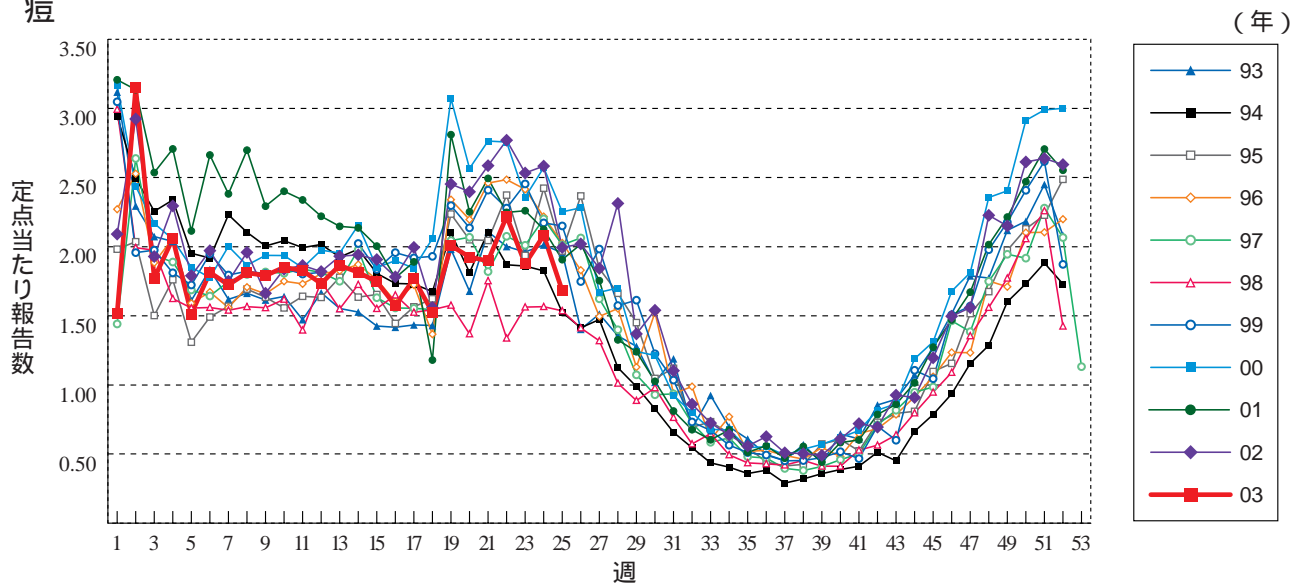
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



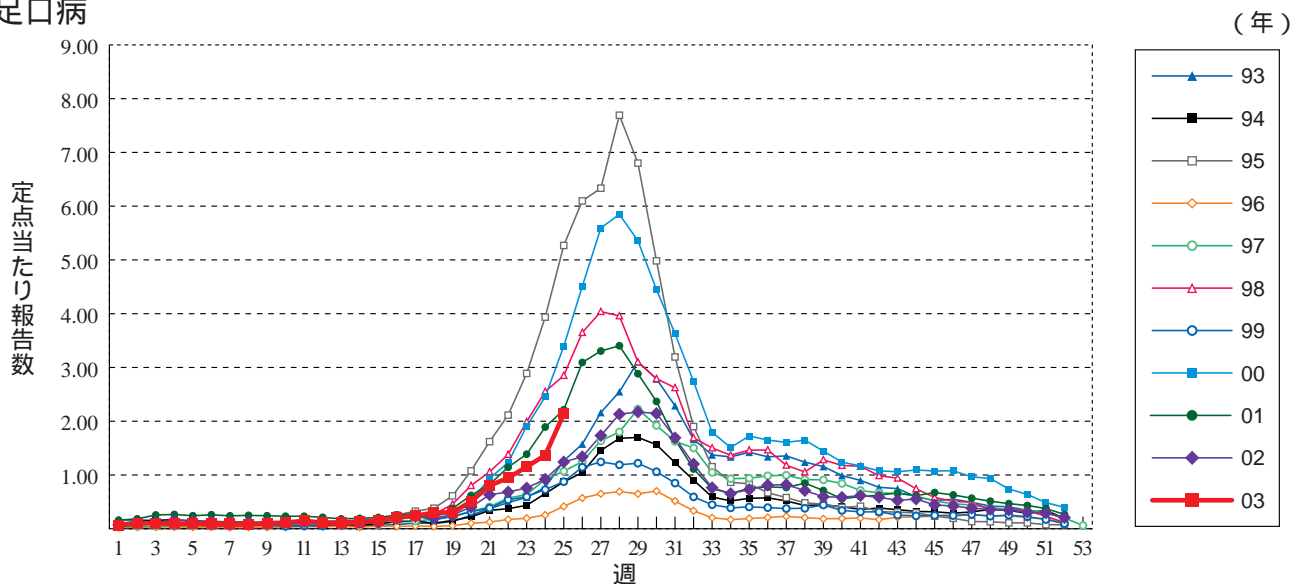
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



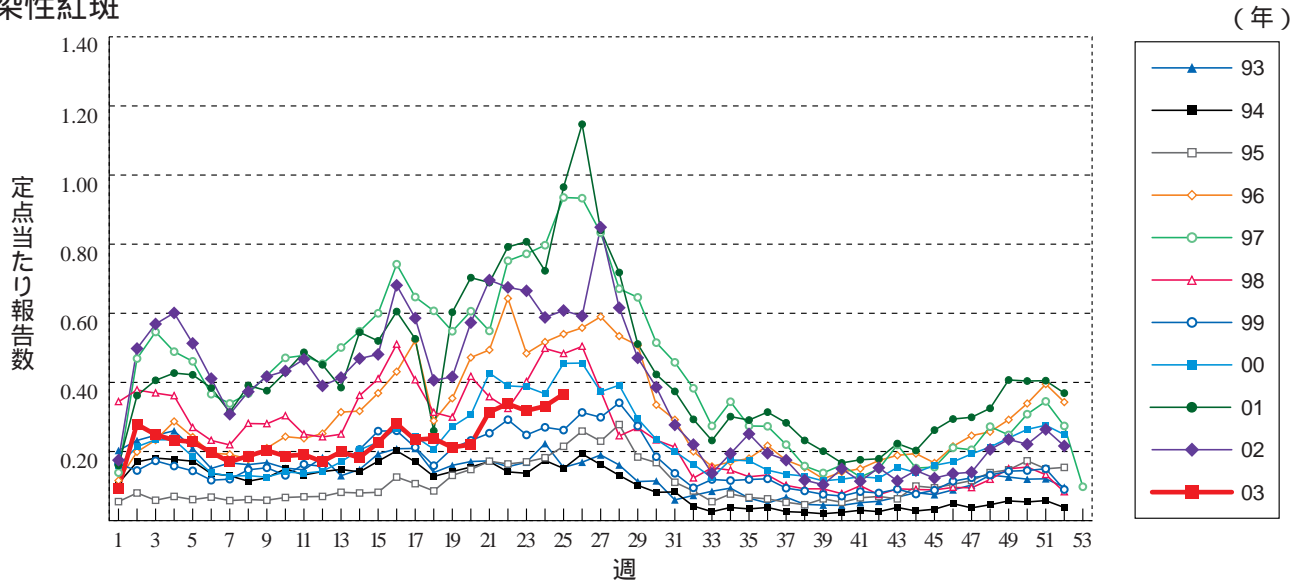
**水痘**



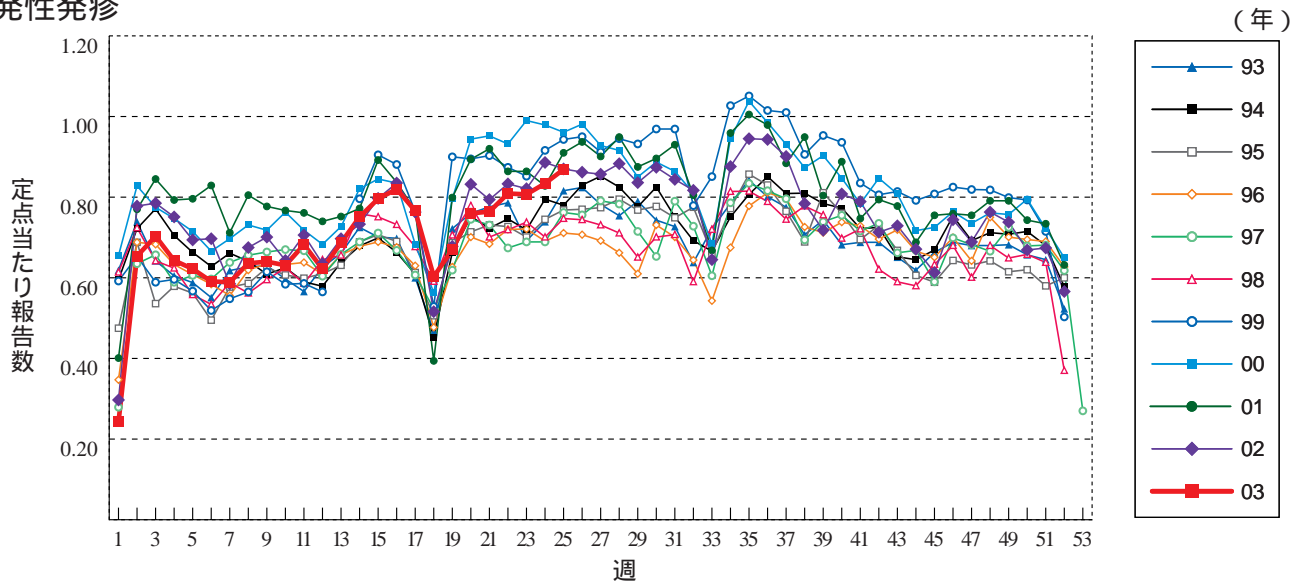
**手足口病**



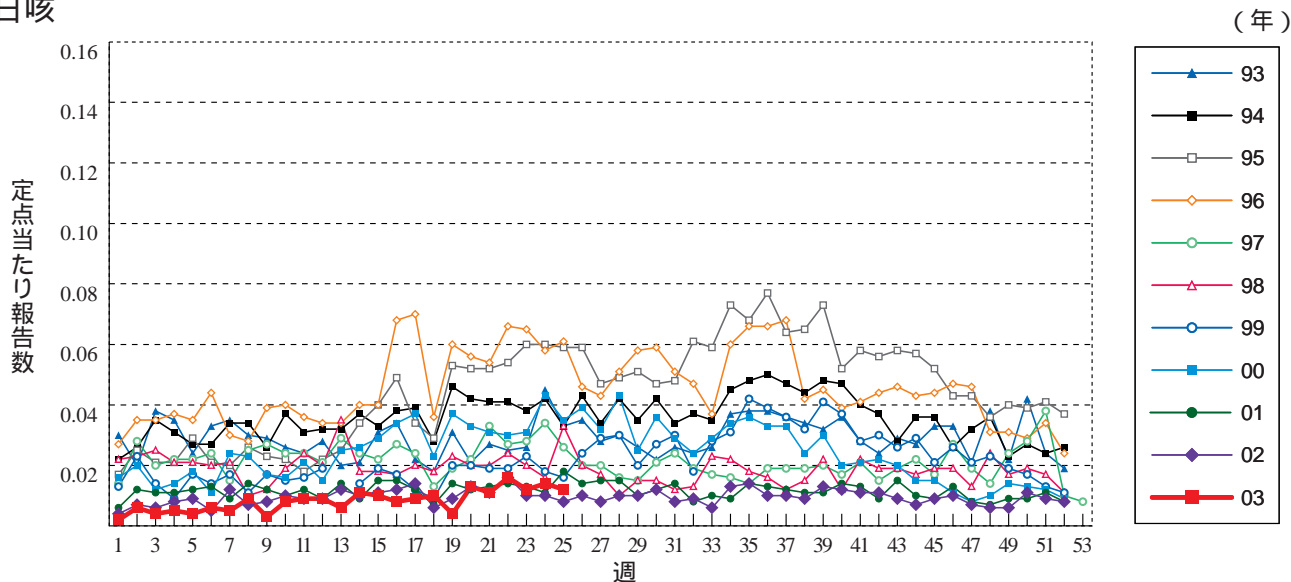
伝染性紅斑



突発性発疹

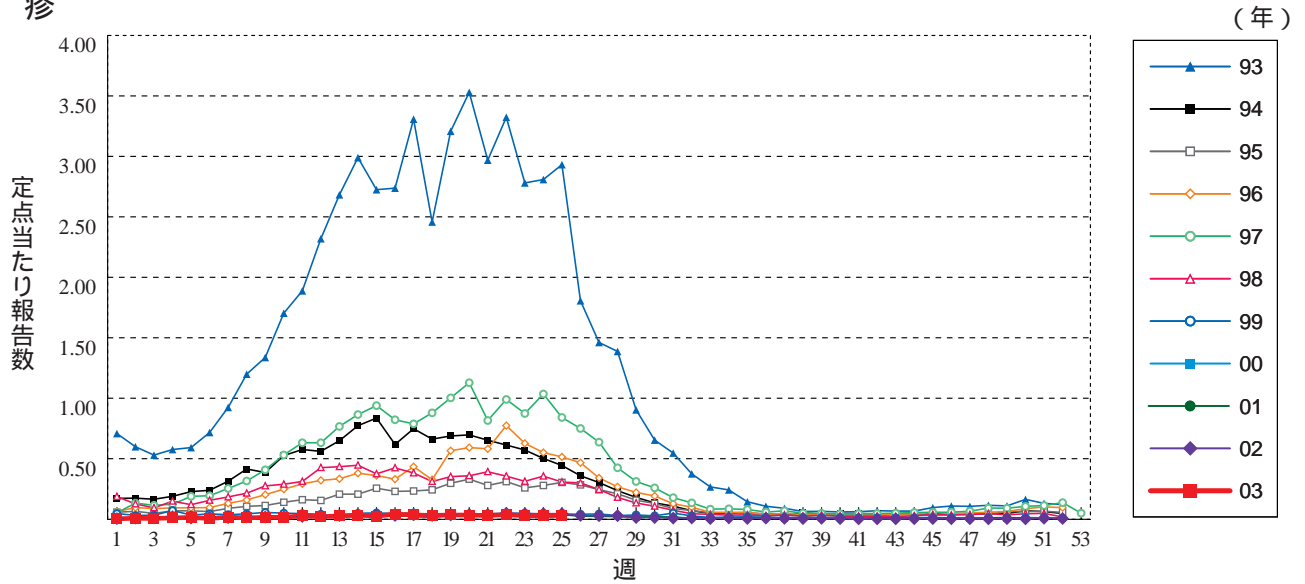


百日咳

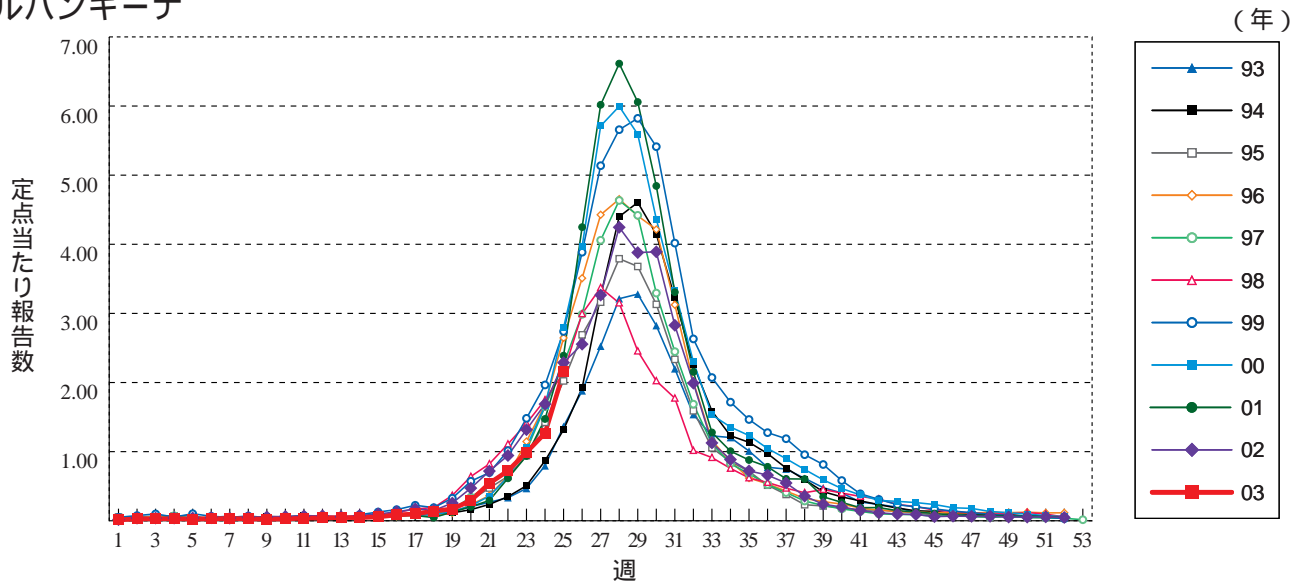




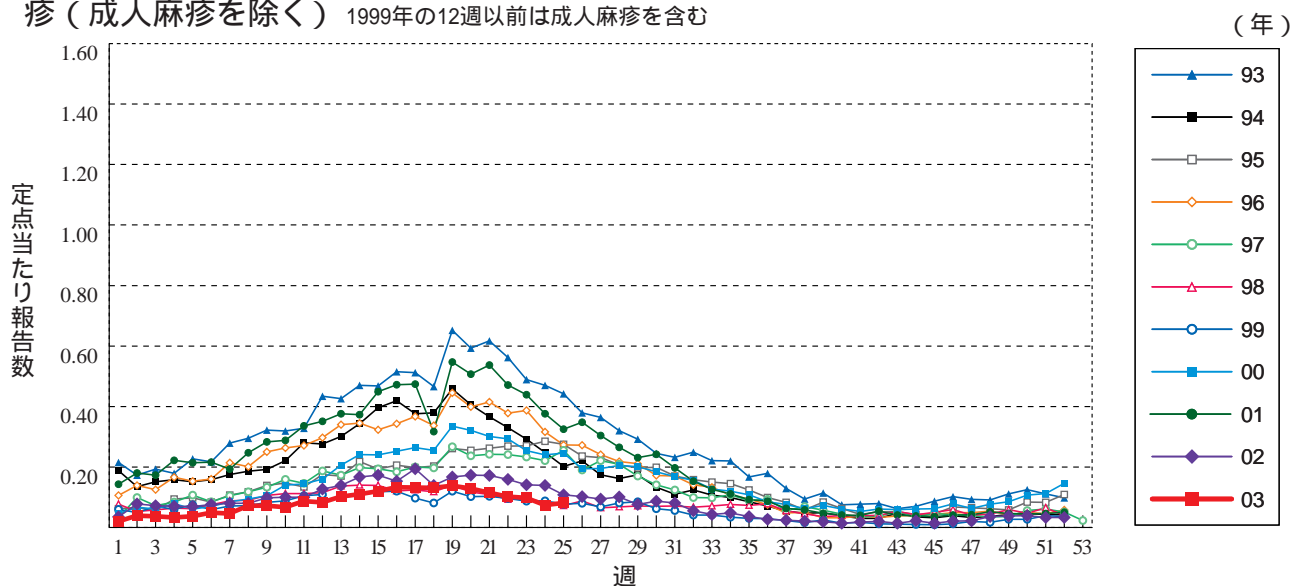
風 疹



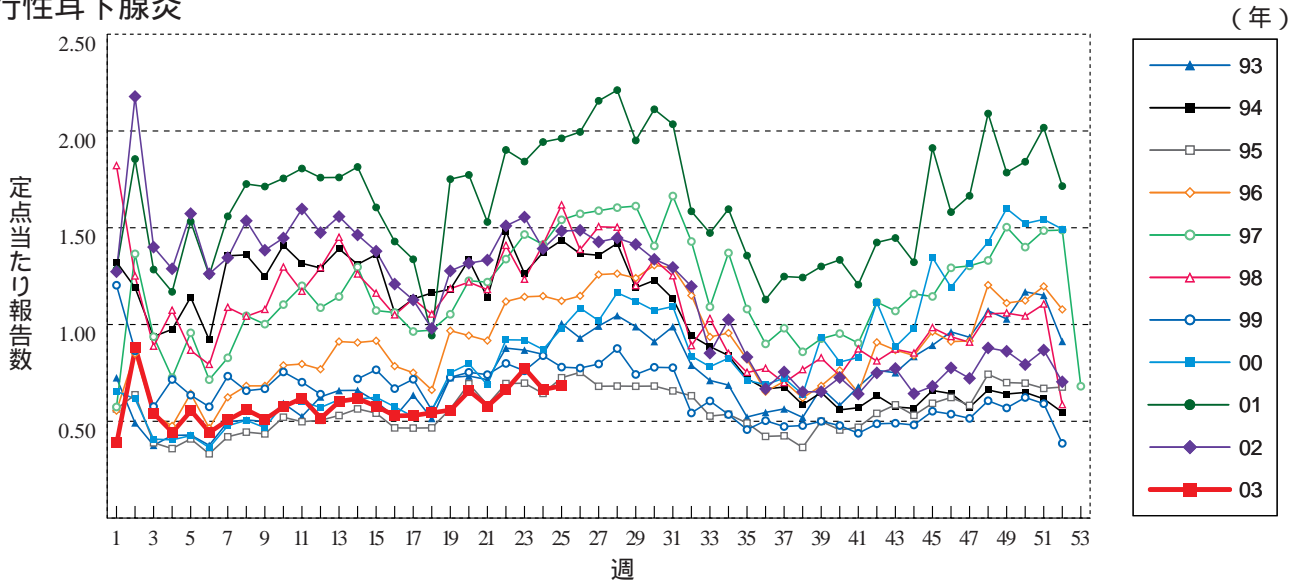
ヘルパンギーナ



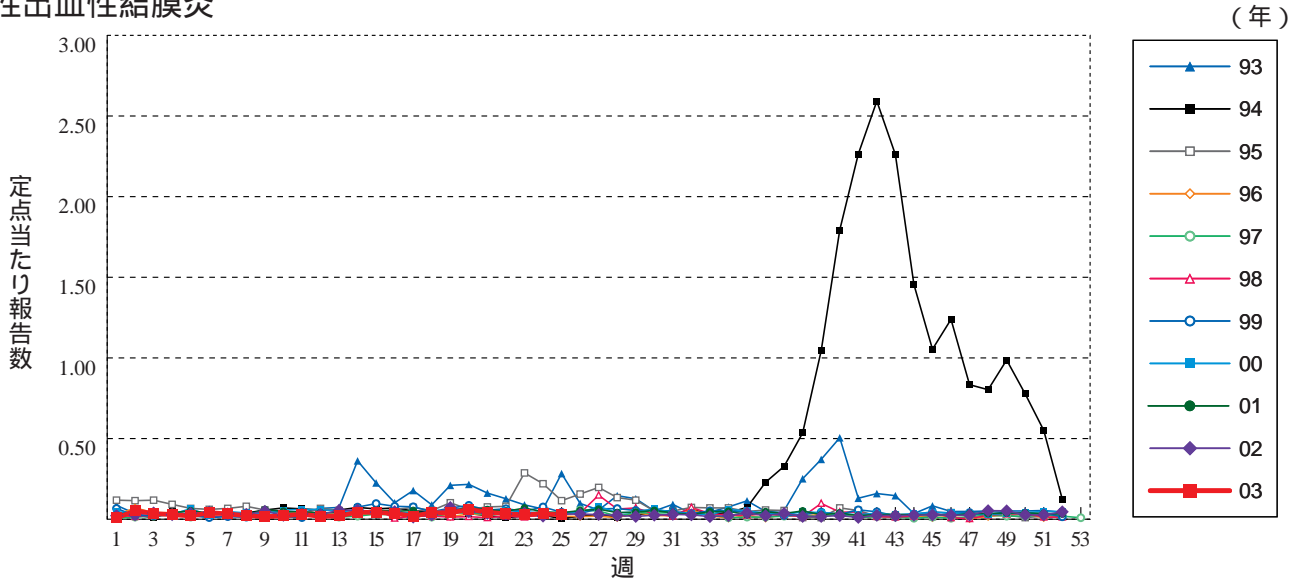
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



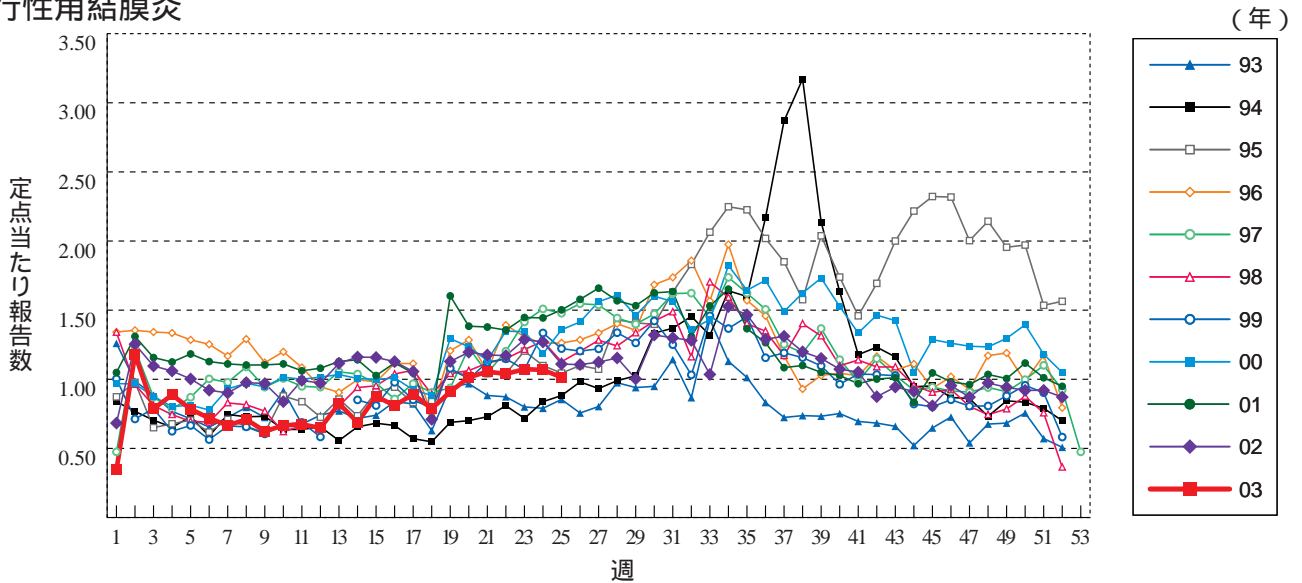
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

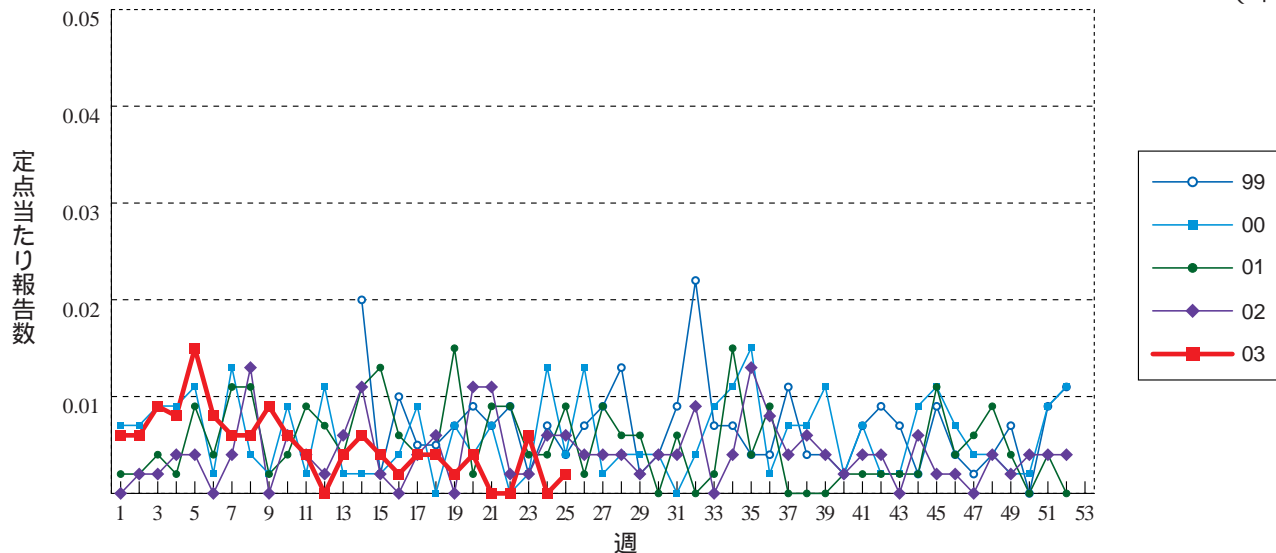


流行性角結膜炎



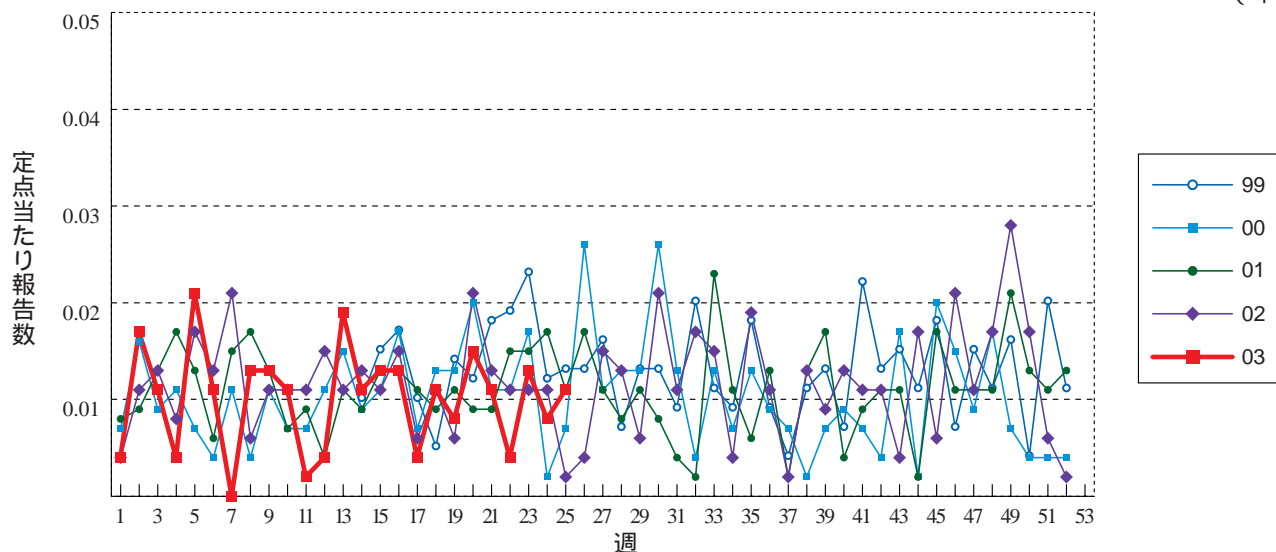
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



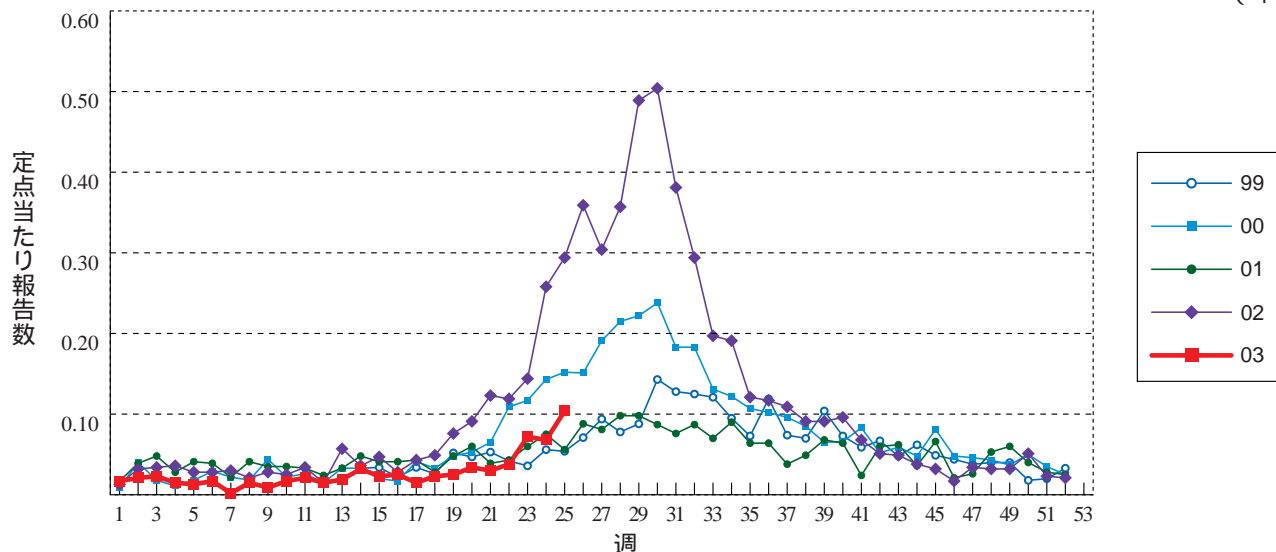
細菌性髄膜炎

(年)



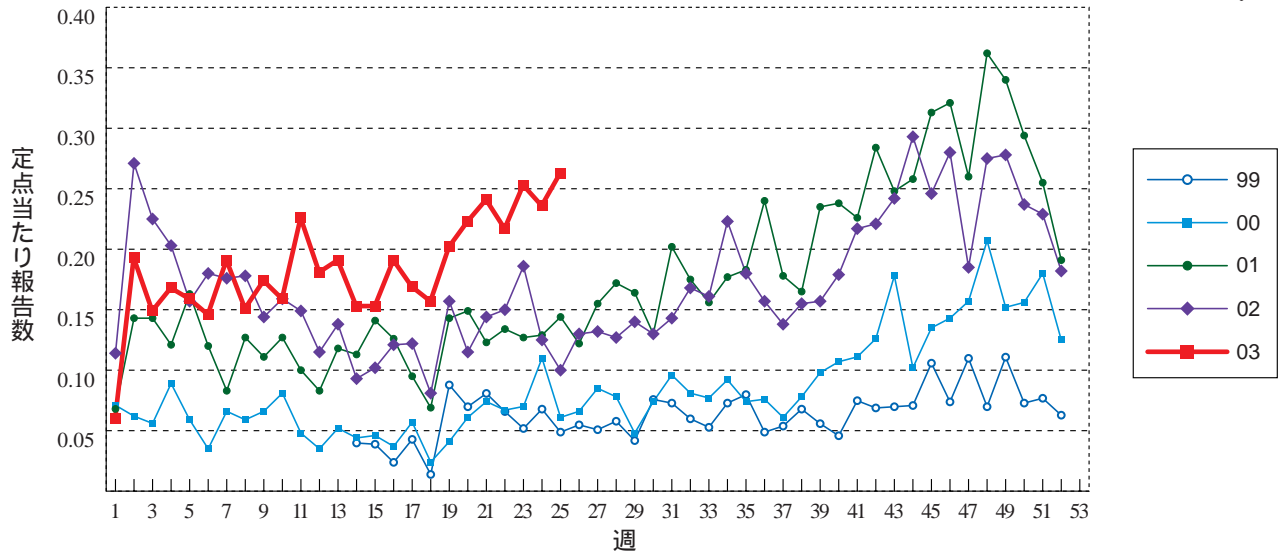
無菌性髄膜炎

(年)



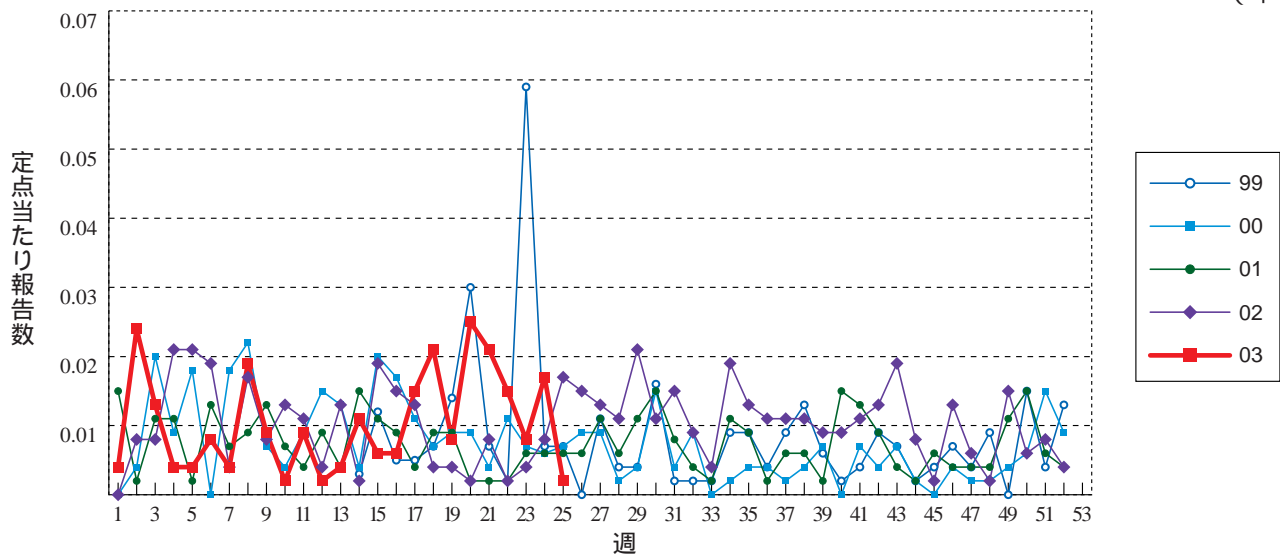
マイコプラズマ肺炎

(年)



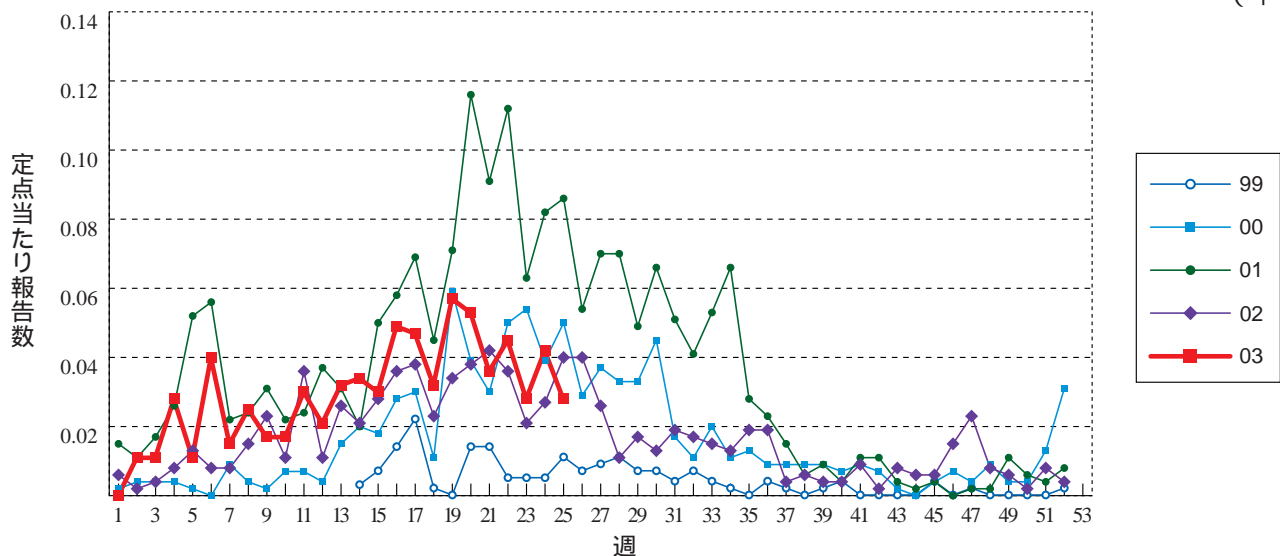
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





## 25週のデータ

注)表中の報告数は6月26日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成15年25週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス			
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積		
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	4	205	2	31	1	18			
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	1	-	2			
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-			
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-			
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-			
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-			
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-			
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-			
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-			
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-			
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-			
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-			
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	47	1	11	-	3			
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	16	-	-	-	3			
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-			
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3			
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-			
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-			
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-			
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	1			
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-			
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	2	-			
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	12	-	1	-	1			
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-			
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-			
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-			
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	3	-	1			
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	3			
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	1	-	-			
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-			
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-			
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-			
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-			
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-			
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-			
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10	-	2	-	1		
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-			
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-			
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-			
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			



第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年25週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	49	545	5	236	-	11	-	-	-	27	-	-	2	429
北海道	-	-	-	-	-	15	-	2	-	10	-	-	-	1	-	-	-	9
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	9
宮城県	-	-	-	-	-	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
秋田県	-	-	-	-	1	22	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
茨城県	-	-	-	-	-	5	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	2	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
埼玉県	-	-	-	-	2	12	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
千葉県	-	-	-	-	5	31	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
東京都	-	-	-	-	3	47	1	60	-	-	-	-	-	-	-	-	1	44
神奈川県	-	-	-	-	4	15	-	23	-	-	-	-	-	3	-	-	-	20
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	8	33	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
福井県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	1	4	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	-	14	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
岐阜県	-	-	-	-	-	51	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	-	-	-	1	13	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛知県	-	-	-	-	-	23	2	23	-	1	-	-	-	2	-	-	-	14
三重県	-	-	-	-	1	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	1	4	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	2	16	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大阪府	-	-	-	-	2	27	1	35	-	-	-	-	-	7	-	-	-	39
兵庫県	-	-	-	-	1	25	-	4	-	-	-	-	-	4	-	-	-	24
奈良県	-	-	-	-	-	6	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
和歌山県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岡山県	-	-	-	-	4	23	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
広島県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	18
山口県	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	11
徳島県	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
香川県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
高知県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福岡県	-	-	-	-	1	17	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47
佐賀県	-	-	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
長崎県	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	6	24	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	10
鹿児島県	-	-	-	-	2	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年25週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	4	-	-	-	1	4	54	-	34	6	391	-	1	6	47	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	13	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	10	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	22	-	-	-	1	-	-
東京都	-	1	-	-	-	-	1	5	-	3	-	139	-	-	1	20	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	32	-	-	1	9	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	3	3	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	24	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	1	8	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	1	1	4	4	-	1	1	38	-	-	-	5	-	-
兵庫県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	12	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	5	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年25週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	12	-	1	-	-	6	120	2	16	1	9	-	-	-	-	5	222
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
青森県	-	-	-	-	-	-	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
秋田県	-	-	-	-	-	-	2	26	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	2	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6
東京都	-	3	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	38
神奈川県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	6
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	14
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	29
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	6
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	3	-	-	-	-	1	7
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年25週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	31	-	34	-	-	-	-	-	-	-	-	2	36	-	2	1	55
北海道	-	1	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
群馬県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
埼玉県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13	-	-	-	7
神奈川県	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	4	
新潟県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
富山県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛知県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5
兵庫県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
広島県	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成15年25週

	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	
	報告数	累積
総 数	-	-
北海道	-	-
青森県	-	-
岩手県	-	-
宮城県	-	-
秋田県	-	-
山形県	-	-
福島県	-	-
茨城県	-	-
栃木県	-	-
群馬県	-	-
埼玉県	-	-
千葉県	-	-
東京都	-	-
神奈川県	-	-
新潟県	-	-
富山県	-	-
石川県	-	-
福井県	-	-
山梨県	-	-
長野県	-	-
岐阜県	-	-
静岡県	-	-
愛知県	-	-
三重県	-	-
滋賀県	-	-
京都府	-	-
大阪府	-	-
兵庫県	-	-
奈良県	-	-
和歌山県	-	-
鳥取県	-	-
島根県	-	-
岡山県	-	-
広島県	-	-
山口県	-	-
徳島県	-	-
香川県	-	-
愛媛県	-	-
高知県	-	-
福岡県	-	-
佐賀県	-	-
長崎県	-	-
熊本県	-	-
大分県	-	-
宮崎県	-	-
鹿児島県	-	-
沖縄県	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成15年25週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	24	0.01	1280	0.42	4531	1.49	10722	3.52	5122	1.68	6509	2.14	1116	0.37	2647	0.87	38	0.01
北海道	9	0.04	32	0.22	242	1.67	310	2.14	382	2.63	40	0.28	191	1.32	89	0.61	-	-
青森県	-	-	-	-	36	0.86	66	1.57	90	2.14	56	1.33	4	0.1	20	0.48	-	-
岩手県	-	-	1	0.03	26	0.68	60	1.58	84	2.21	36	0.95	9	0.24	22	0.58	-	-
宮城県	-	-	6	0.1	87	1.47	373	6.32	91	1.54	49	0.83	38	0.64	78	1.32	-	-
秋田県	-	-	13	0.38	32	0.94	159	4.68	39	1.15	11	0.32	-	-	24	0.71	-	-
山形県	-	-	8	0.27	76	2.53	138	4.6	60	2	51	1.7	5	0.17	30	1	-	-
福島県	1	0.01	5	0.1	47	0.98	217	4.52	68	1.42	47	0.98	10	0.21	36	0.75	1	0.02
茨城県	-	-	13	0.18	93	1.26	193	2.61	103	1.39	184	2.49	14	0.19	46	0.62	-	-
栃木県	-	-	2	0.04	62	1.35	127	2.76	64	1.39	55	1.2	6	0.13	47	1.02	5	0.11
群馬県	-	-	21	0.34	107	1.73	119	1.92	122	1.97	98	1.58	36	0.58	41	0.66	-	-
埼玉県	4	0.02	84	0.52	385	2.39	632	3.93	267	1.66	367	2.28	56	0.35	145	0.9	2	0.01
千葉県	-	-	70	0.54	325	2.5	462	3.55	252	1.94	171	1.32	65	0.5	148	1.14	4	0.03
東京都	-	-	74	0.52	151	1.06	425	2.99	142	1	333	2.35	41	0.29	87	0.61	-	-
神奈川県	1	0	109	0.53	298	1.44	701	3.39	344	1.66	189	0.91	87	0.42	190	0.92	-	-
新潟県	-	-	18	0.3	118	1.97	254	4.23	186	3.1	95	1.58	25	0.42	47	0.78	-	-
富山県	-	-	51	1.76	88	3.03	122	4.21	57	1.97	55	1.9	14	0.48	21	0.72	-	-
石川県	-	-	31	1.07	42	1.45	94	3.24	44	1.52	12	0.41	6	0.21	28	0.97	1	0.03
福井県	-	-	35	1.59	32	1.45	108	4.91	52	2.36	27	1.23	9	0.41	15	0.68	-	-
山梨県	1	0.02	-	-	48	1.92	66	2.64	13	0.52	7	0.28	10	0.4	10	0.4	-	-
長野県	-	-	4	0.07	112	2.04	262	4.76	215	3.91	63	1.15	52	0.95	53	0.96	-	-
岐阜県	-	-	46	0.87	66	1.25	107	2.02	79	1.49	206	3.89	18	0.34	30	0.57	3	0.06
静岡県	-	-	35	0.41	100	1.16	350	4.07	128	1.49	372	4.33	87	1.01	84	0.98	1	0.01
愛知県	-	-	45	0.25	328	1.8	484	2.66	335	1.84	698	3.84	54	0.3	147	0.81	-	-
三重県	-	-	50	1.11	67	1.49	219	4.87	55	1.22	104	2.31	39	0.87	66	1.47	-	-
滋賀県	-	-	24	0.75	24	0.75	85	2.66	63	1.97	31	0.97	5	0.16	24	0.75	-	-
京都府	-	-	8	0.11	65	0.86	318	4.18	97	1.28	169	2.22	8	0.11	39	0.51	2	0.03
大阪府	-	-	52	0.27	225	1.15	729	3.74	226	1.16	466	2.39	36	0.18	169	0.87	5	0.03
兵庫県	1	0.01	74	0.58	179	1.4	573	4.48	252	1.97	136	1.06	38	0.3	87	0.68	1	0.01
奈良県	-	-	8	0.23	25	0.71	129	3.69	42	1.2	27	0.77	6	0.17	24	0.69	-	-
和歌山県	-	-	3	0.1	25	0.81	143	4.61	43	1.39	27	0.87	3	0.1	19	0.61	1	0.03
鳥取県	-	-	7	0.37	47	2.47	121	6.37	44	2.32	12	0.63	4	0.21	21	1.11	-	-
島根県	-	-	4	0.17	18	0.78	62	2.7	29	1.26	115	5	-	-	14	0.61	-	-
岡山県	-	-	5	0.09	33	0.61	190	3.52	80	1.48	43	0.8	7	0.13	44	0.81	2	0.04
広島県	-	-	28	0.37	93	1.24	277	3.69	133	1.77	803	10.71	31	0.41	75	1	2	0.03
山口県	-	-	14	0.29	113	2.31	186	3.8	79	1.61	241	4.92	7	0.14	56	1.14	-	-
徳島県	-	-	11	0.48	29	1.26	95	4.13	30	1.3	12	0.52	4	0.17	31	1.35	-	-
香川県	-	-	23	0.72	17	0.53	131	4.09	44	1.38	108	3.38	3	0.09	33	1.03	-	-
愛媛県	-	-	17	0.44	46	1.18	213	5.46	73	1.87	85	2.18	4	0.1	33	0.85	-	-
高知県	-	-	6	0.19	34	1.1	59	1.9	45	1.45	24	0.77	9	0.29	26	0.84	-	-
福岡県	-	-	117	0.98	225	1.88	507	4.23	221	1.84	444	3.7	23	0.19	145	1.21	7	0.06
佐賀県	-	-	7	0.3	33	1.43	30	1.3	50	2.17	86	3.74	-	-	43	1.87	-	-
長崎県	-	-	6	0.14	31	0.7	73	1.66	22	0.5	71	1.61	5	0.11	28	0.64	-	-
熊本県	-	-	10	0.2	84	1.71	176	3.59	93	1.9	29	0.59	3	0.06	65	1.33	-	-
大分県	-	-	66	1.83	59	1.64	136	3.78	44	1.22	59	1.64	6	0.17	44	1.22	-	-
宮崎県	-	-	8	0.22	115	3.19	199	5.53	72	2	141	3.92	20	0.56	49	1.36	-	-
鹿児島県	6	0.06	29	0.5	40	0.69	207	3.57	43	0.74	43	0.74	1	0.02	54	0.93	-	-
沖縄県	1	0.02	-	-	3	0.09	35	1.03	25	0.74	11	0.32	17	0.5	20	0.59	1	0.03



第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成15年25週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	96	0.03	6559	2.15	248	0.08	2079	0.68	17	0.03	645	1.01	1	0	5	0.01	49	0.1
北海道	12	0.08	51	0.35	13	0.09	141	0.97	-	-	17	0.59	-	-	-	-	-	-
青森県	3	0.07	24	0.57	3	0.07	36	0.86	-	-	8	0.73	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	17	0.45	14	0.37	31	0.82	-	-	7	0.58	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	181	3.07	13	0.22	68	1.15	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-
秋田県	1	0.03	66	1.94	1	0.03	23	0.68	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	54	1.8	-	-	14	0.47	-	-	9	1.13	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	106	2.21	24	0.5	38	0.79	-	-	21	1.75	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	168	2.27	4	0.05	35	0.47	-	-	35	2.19	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	26	0.57	18	0.39	20	0.43	-	-	22	1.83	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	6	0.1	291	4.69	4	0.06	84	1.35	1	0.07	26	1.86	-	-	1	0.1	-	-
埼玉県	2	0.01	232	1.44	17	0.11	78	0.48	-	-	24	0.65	-	-	-	-	-	-
千葉県	3	0.02	187	1.44	12	0.09	62	0.48	3	0.09	34	1	-	-	1	0.08	-	-
東京都	12	0.08	146	1.03	15	0.11	25	0.18	1	0.07	19	1.36	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	13	0.06	175	0.85	23	0.11	102	0.49	-	-	54	1.29	-	-	-	-	1	0.08
新潟県	-	-	14	0.23	1	0.02	64	1.07	-	-	1	0.11	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	37	1.28	1	0.03	1	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	65	2.24	1	0.03	13	0.45	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	65	2.95	1	0.05	3	0.14	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.17
山梨県	-	-	5	0.2	-	-	2	0.08	-	-	2	0.67	-	-	-	-	2	0.2
長野県	1	0.02	41	0.75	-	-	16	0.29	-	-	5	0.45	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	52	0.98	-	-	22	0.42	-	-	10	0.83	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	236	2.74	3	0.03	110	1.28	-	-	20	1	1	0.1	-	-	1	0.1
愛知県	-	-	440	2.42	4	0.02	142	0.78	2	0.06	39	1.11	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	255	5.67	-	-	15	0.33	-	-	2	0.17	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	-	-	91	2.84	-	-	16	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.43
京都府	-	-	113	1.49	6	0.08	17	0.22	-	-	16	0.89	-	-	-	-	-	-
大阪府	3	0.02	990	5.08	14	0.07	71	0.36	1	0.02	43	0.88	-	-	1	0.07	7	0.47
兵庫県	3	0.02	447	3.49	2	0.02	216	1.69	-	-	28	0.8	-	-	-	-	3	0.25
奈良県	1	0.03	132	3.77	1	0.03	27	0.77	-	-	10	1.11	-	-	-	-	3	0.5
和歌山県	-	-	151	4.87	9	0.29	8	0.26	-	-	-	-	-	-	1	0.09	12	1.09
鳥取県	1	0.05	95	5	-	-	15	0.79	-	-	7	2.33	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	79	3.43	1	0.04	9	0.39	-	-	4	1.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	15	0.28	94	1.74	9	0.17	47	0.87	-	-	20	1.67	-	-	-	-	-	-
広島県	1	0.01	111	1.48	-	-	55	0.73	1	0.05	30	1.5	-	-	-	-	6	0.29
山口県	-	-	355	7.24	5	0.1	61	1.24	-	-	11	1.22	-	-	-	-	-	-
徳島県	2	0.09	25	1.09	-	-	10	0.43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	59	1.84	-	-	6	0.19	1	0.33	4	1.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.03	48	1.23	1	0.03	6	0.15	-	-	18	2.57	-	-	-	-	-	-
高知県	4	0.13	31	1	2	0.06	59	1.9	-	-	8	2.67	-	-	1	0.13	-	-
福岡県	4	0.03	270	2.25	10	0.08	65	0.54	-	-	40	1.54	-	-	-	-	-	-
佐賀県	1	0.04	23	1	-	-	13	0.57	-	-	2	0.5	-	-	-	-	-	-
長崎県	2	0.05	6	0.14	1	0.02	23	0.52	-	-	3	0.38	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	0.02	238	4.86	-	-	11	0.22	-	-	13	1.44	-	-	-	-	4	0.27
大分県	-	-	96	2.67	1	0.03	28	0.78	-	-	6	1.2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	2	0.06	120	3.33	5	0.14	38	1.06	7	1.75	8	2	-	-	-	-	3	0.43
鹿児島県	-	-	41	0.71	9	0.16	119	2.05	-	-	7	1.17	-	-	-	-	-	-
沖縄県	2	0.06	10	0.29	-	-	14	0.41	-	-	2	0.2	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成15年25週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	124	0.26	1	0	13	0.03
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	5	0.83	-	-	-	-
岩手県	16	0.8	-	-	-	-
宮城県	13	1.08	-	-	-	-
秋田県	4	0.57	-	-	-	-
山形県	10	1	-	-	1	0.1
福島県	2	0.29	-	-	2	0.29
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.14	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	1	0.11
千葉県	5	0.38	-	-	-	-
東京都	3	0.12	-	-	7	0.28
神奈川県	-	-	-	-	2	0.17
新潟県	4	0.33	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	1	0.1	1	0.1	-	-
長野県	2	0.18	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	9	0.9	-	-	-	-
愛知県	9	0.69	-	-	-	-
三重県	5	0.56	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	1	0.2	-	-	-	-
大阪府	6	0.4	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	3	0.27	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	2	0.25	-	-	-	-
岡山県	5	1	-	-	-	-
広島県	3	0.14	-	-	-	-
山口県	4	0.44	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.17	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	4	0.36	-	-	-	-
熊本県	2	0.13	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	4	0.57	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第5巻、第25号 平成15年7月4日発行  
 発行：国立感染症研究所  
 厚生労働省健康局結核感染症課  
 厚生労働省大臣官房統計情報部  
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
 T E L : 03-5285-1111  
 F A X : 03-5285-1129  
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>  
<http://www.mhlw.go.jp/>  
 <厚生労働省>  
<http://www.forth.go.jp/>  
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。